

IV 新人看護職員指導者研修会概要

1 目的

新人看護職員に携わる指導者が新人看護職員研修ガイドラインに示されている新人看護職員研修の実施に必要な能力を習得し、研修実施病院等における適切な研修実施体制の強化を図り、新人看護職員の早期離職を防止する。

2 対象及び開催状況

指導者研修会については、平成 17 年度から開催しているところであるが、平成 23 年度からは、病院等においてより効果的な研修が実施できるように、研修責任者・教育担当者、実地指導者の対象別に研修会を実施している。

【対象】

研修責任者・・・研修責任者及びその任にあたる予定の者

教育担当者・・・部署の教育担当者の任にある者

実地指導者・・・新人看護職員に対して、臨床実践に関する実地指導、評価を行う者

3 研修内容及び講師

研修責任者・教育担当者

日時		内容	講師	参加者
1 日目	5/12 (日)	【新人看護職員ガイドラインの理解と活用方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・新人看護職員をめぐる現状と課題 ・新人看護職員研修制度の概要 ・新人看護職員ガイドラインの内容と活用方法 ・新人看護職員研修の組織体制 ・研修責任者・教育担当者・実地指導者の役割 ・新人看護職員に関わる看護職員の職場適応メンタルサポート 	公益社団法人 日本看護協会 常任理事 熊谷 雅美 氏	66 名
2 日目	6/20 (木)	【新人看護職員研修の企画と評価の実際】 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎教育における看護実践能力の習得状況 ・指導方法や教育的かわり方 	済生会横浜市東部病院 看護師長	
3 日目	6/21 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・新人看護職員教育計画立案と運営、評価の実際 ・グループワーク 	小陽 美紀 氏	

4 日目	9/20 (金))	【新人看護職員研修のリフレクション】 ・新人看護職員指導上の問題とその解決方法 ・実践事例から学ぶ ・演習		
------	------------------	---	--	--

実地指導者

日時		内容	講師	参加者
1 日目	5/9 (木)	【新人看護職員研修について】 ・新人看護職ガイドライン ・実地指導者の役割 ・新人看護職員の特徴 ・新人看護職員への効果的な関わり 【指導方法・評価】	東京医療保健大学 医療保健学部看護学 科 教授 末永 由理 氏	125 名
2 日目	5/10 (金)	・成人学習者の特徴と教育方法 ・指導計画の立案と実施・評価のポイント 【実地指導者の育成・支援】 ・実地指導者が経験しやすい指導上の問題や困難と解決方法		
3 日目	6/17 (月)	・新人看護職員精神的支援 新人看護職員の心理的特徴・適応状況の把握適応の 支援、関係を築くコミュニケーション ・自身のストレスマネジメント ・情報交換	金沢医科大学病院 精神神経科学 臨床心理士 北本 福美 氏	
4 日目	R 2 2/14 (金)	【フィードバック】 ・新人看護師支援の体制と実践の振り返りを行う ・新人看護師とのかかわり場面を1つ取り上げ、振り返り を 行う	東京医療保健大学 医療保健学部看護学 科 教授 末永 由理 氏	

4 新人看護職員研修推進会議

県内に就業した新人看護職員をはじめとする看護職員に対し、自施設だけで研修の実施が困難な場合には、他施設で研修が受けられるように受入研修の体制を整備している。

受入れ病院の協力のもと、令和元年度は7病院で受入があり、参加者からは基本的かつ実践的で有意義であったとの意見が聞かれる。また、受入れ施設からは、地域連携に繋がる、他施設の看護師と共に積極的に取り組んでおり、双方にとって良い学びとなるよう今後も受け入れていきたいとの意見が聞かれた。

令和2年度新人看護職員指導者研修会 アンケート結果

I 研修責任者・教育担当者研修（1日目）

開催日 平成元年5月12日（日）

参加者 71名（内、非会員4名） 回答71名

講師 公益社団法人日本看護協会 常任理事 熊谷 雅美

1 参加者の背景

職種

保	助	看	准	合計
0	1	70	0	71

実務経験年数

0~4年	5~9年	10~14年	15~19年	20~24年	25~29年	30年以上	不明	合計
0	13	10	17	14	8	6	3	71

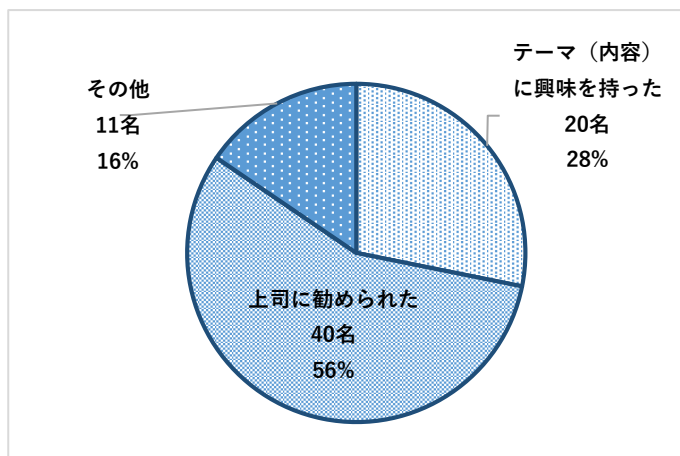
年齢

20代	30代	40代	50代	合計
5	24	30	12	71

施設

200床未満	300床未満	400床未満	400床以上	無回答	合計
22	19	8	20	2	71

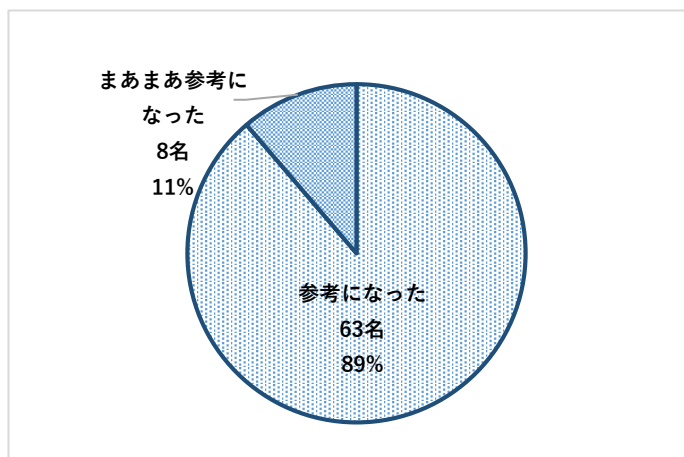
2 受講動機



【その他】

- ・今年度教育担当者のため（5）
- ・当院の新人教育責任者になって見直しをしたかった
- ・知識の継続、4~5年ぶり
- ・教育担当者として指導のあり方に迷っているため

3 講義（人材育成、研修制度、評価）について

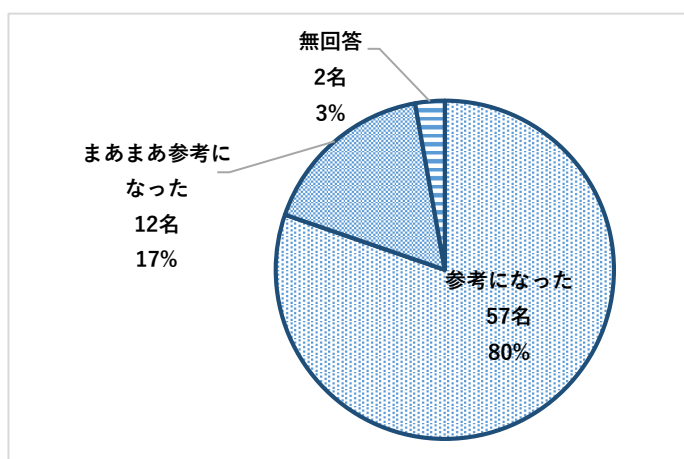


・目的、方法、期待する結果と順を追っ

て説明していただきとてもわかりやすかった

- ・具体例を用いての講義は、大変意義のある話で参考になった。普段から新人のみならずスタッフ育成に関わっているが、相手を知ることの奥深さ、本当に大変難しく感じる。多様性のある人たちと関わり、自分なりに相手を知る努力を続け、自分の特性を知って関わることを大事にしていきたい (2)
- ・行動が変わるように動機を共有し、評価してみていくことが理解できた (3)
- ・納得できて、明日からの指導に使っていきたいと思えることがたくさんあった (3)
- ・成人型学習、体験をして学ぶ、たとえば→つまりを実践していきたい (2)
- ・次の時代を担う教育者・指導者の育成が何を持って何を目指していくかが明確になった。病院は様々な背景から変革の岐路に立たされていることを学ぶことができた (3)
- ・5年前に受講した時は、なって欲しい看護師、ねがいにむけて育成していたような気がする。今はくらしを支える看護、自分で考えて行動できる看護師育成が大切だと学んだ (2)

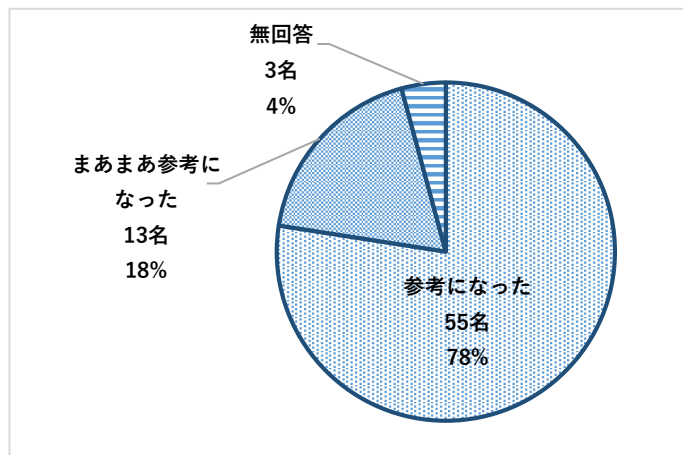
4 事例検討について



- ・具体的でわかりやすい。自分の行動を振り返るきっかけにもなった
- ・指導者と新人が同じ目標を共有し、できることできないことを明確にし、次に繋がるように指導しなければいけない (2)

- ・指導者に対する教育について考える機会となった。臨機応変に自分で考えて行動できる看護師の育成が出来るよう目標設定など再度検討していきたい
- ・教育学システムを使って学習過程が間違っていたら修正する。気持ちが楽になった

5 講義（臨床現場が困っていること）について



- ・看護を取り巻く現状がよく分かった。これからの現場を担う看護師を育てるために自分も勉強しなければいけないと実感した
- ・在宅の視点を持った看護を創造できる、一人暮らしや老老介護、在宅に向けても倫理的課題に対応できる看護師を育成するにあたり参考になった
- ・どこの病院にもある“困っていること”が分かり、今後どうすれば解決できるか理解できた。
- ・指導する人が何に悩み、苦しんでいるのかに気付かずにいることで、新人のみならず指導者も窮地に立たされていると感じた

6 今回の研修について

- ・患者の最期の時間を共有させてもらえる仕事の素晴らしさと大変さの両方を再確認した。患者だけでなくご家族との関わりも大切にして接していきたいと改めて思う（2）
- ・新人指導から地域包括ケアまで幅広く学習することができた。今は頭が知識でぎゅうぎゅうなのでリフレクションして自分の中に落とし込んで行動に移していきたい
- ・看護師を現場で育てるには指導者側のアプローチの仕方が大事であり、コミュニケーションをとって一緒に目標に向かっていくことが大切
- ・指導に悩むことは常にあり多様な価値観とぶつかる中で、こういった研修に参加することで実践で活かしてみようや充実感を感じた

II 研修責任者・教育担当者研修（2・3日目）

開催日 令和元年6月20日（木）、6月21日（金）

参加者 71名（内、非会員4名） 回答68名

講師 済生会横浜市東部病院 看護師長 小陽 美紀

1 参加者の背景

職種

保	助	看	准	合計
0	2	69	0	71

実務経験年数

0~4年	5~9年	10~14年	15~19年	20~24年	25~29年	30年以上	不明	合計
0	14	9	18	14	8	5	3	71

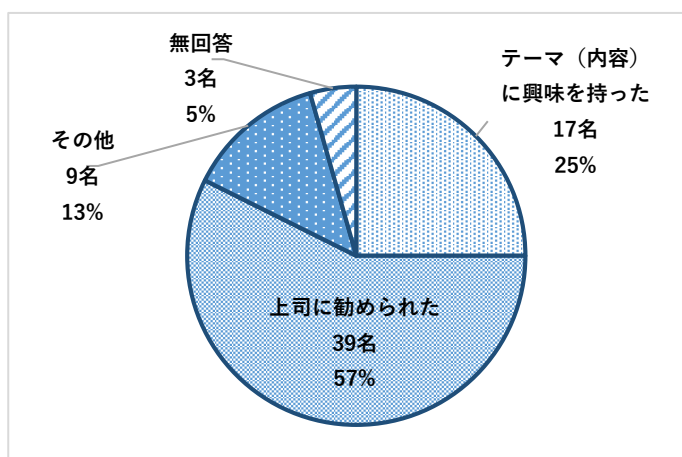
年齢

20代	30代	40代	50代	無回答	合計
5	23	28	11	1	68

施設

200床未満	300床未満	400床未満	400床以上	無回答	合計
25	17	9	16	1	68

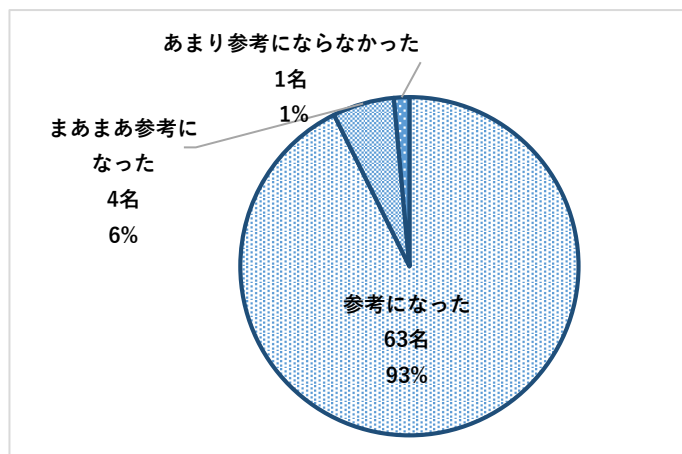
2 受講動機



【その他】

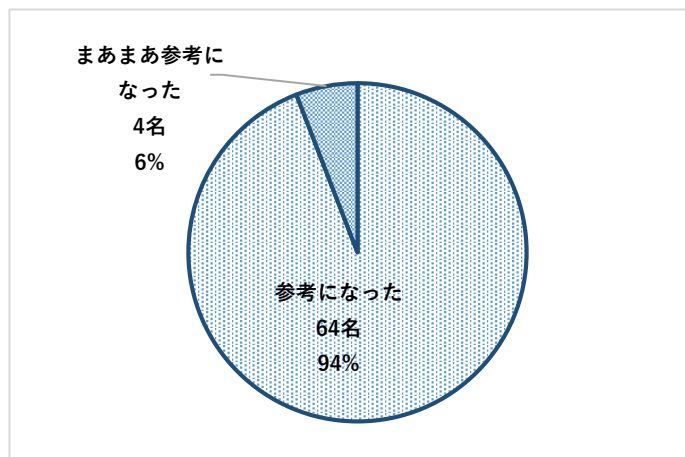
- ・今回教育担当者に任命され、それに関する知識を得たいと考えたため
- ・教育委員のため

3 講義（研修企画）について



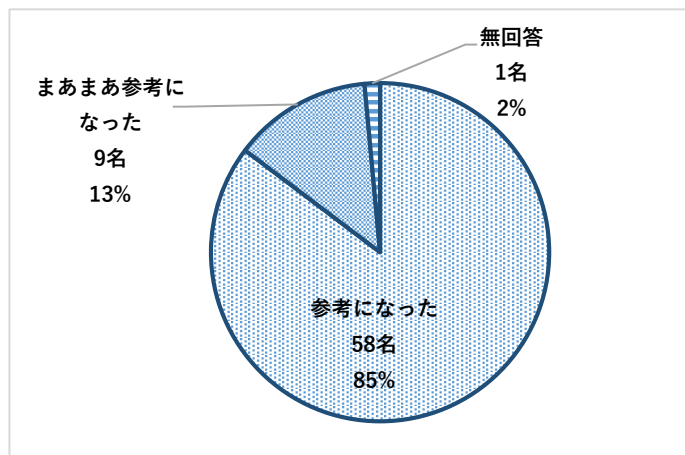
- ・研修企画にあたり、学習者の実態、学習環境条件の何に注意（配慮）すればよいか明確になった。その研修の「ねがい」がどのくらい重要か参考になった
- ・新人教育・看護を行う上で新人の評価ばかり行っていたが、自分たちも振り返る必要があることを学んだ。また、こちらの学習スタイルではなく、本人のスタイルに合わせる必要があることも分かった
- ・“ねがい”まずは自分自身の看護観や価値観をしっかりと見つめ直さなければならないと思った。自身がぶれていると目標→教育計画がぐたぐたになる恐れがあると感じた。
- ・教育プログラムをシステム化しないとこれから自分が関わる新人（研修）教育はとてつらくなる

4 講義（目標と評価）について



- ・教育目標の認知領域、運動技能、態度が参考になった。
- ・目標を「評価する」ということを大前提において、計画を立てることが重要であることがわかった
- ・評価には形成的評価と統括的評価があることが分かった。教育の目標を3つに分けるのがわかりやすかった。目標達成できない時は細分化すればいいとわかった
- ・夜勤導入前の評価方法や態度領域の課題の具体的な事例。現場にも活かそう
- ・こんなに細かく教育評価があることに驚いた。あーあかんことしてたなあ…としみじみ思った。適切なタイミングでの評価があるからそれに応じた目標設定（細分化!!これはわかりやすかった。これぐらいの具体性がないとだめなのだと思った）が出来ることがわかった

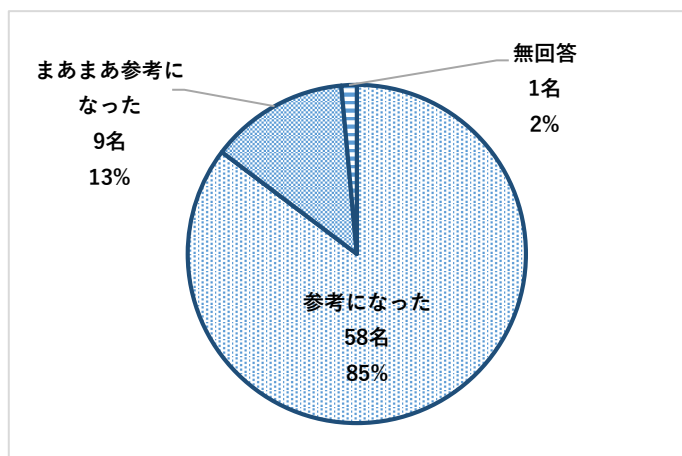
5 講義（研修の運営）について



- ・効果的なフィードバックを行うには、自分自身の伝達力を磨く必要があることの大切さを学んだ
- ・フィードバックはしていたが、相手を認める行動が少なかった。次へ繋がるフィードバックになっていないことに気づいた
- ・実体験、教材などで体験することが成長に繋がることを知った。内省を初めて知った「良いところも悪いところも両方振り返る!!」を今後取り入れていきたい

- ・傾聴と共感をもって新人スタッフと関わりたいと思った。先に相手の話を聞く余裕を持ちたい
- ・自分の今回の研修を受けるきっかけが、ある意味研修の運営だったので具体的にどうすればよいかを学ぶことができた

6 講義・演習（実地指導者の育成）について



- ・youメッセージ、Iメッセージは実践していきたい
- ・フィードバックには即時と長期があり、相手の思いを受け止めて、こちらの思いを伝え要求にもっていき流れが理解できた。
- ・リフレクション（事実・感情・リクエスト）の難しさを感じたが、日々練習し実践していきたい
- ・つい、なぜなぜと聞いてしまうが、何?! どうした? と聞いてあげることの必要性が分かった
- ・演習したことで、日々どのように振り返るかを学ぶことができた

7 今回の研修について

- ・研修動機が全て解決され、たくさんのヒントを得ることができた。とても有意義な研修だった。たくさんイノベーションしていきたい
- ・事例がとてもよかった。自分の看護や新人との関りの振り返りになった
- ・当院のような様々なキャリアをもって入職されるベテラン新人がほとんどの病院で、新人教育は曖昧になりがちで迷うことも多かったが、今回の研修は本当に参考になった
- ・今回新人との関わり方や研修の仕方について、効果的な方法を教えてもらって勉強になった。具体的で行動変容しやすい内容だった

III 研修責任者・教育担当者研修（4日目）

開催日 令和元年9月20日（金）

参加者 69名（内、非会員4名） 回答67名

講師 済生会横浜市東部病院 看護師長 小陽 美紀

1 参加者の背景

職種

保	助	看	准	合計
0	2	67	0	69

実務経験年数

0~4年	5~9年	10~14年	15~19年	20~24年	25~29年	30年以上	不明	合計
0	13	10	18	13	7	5	3	69

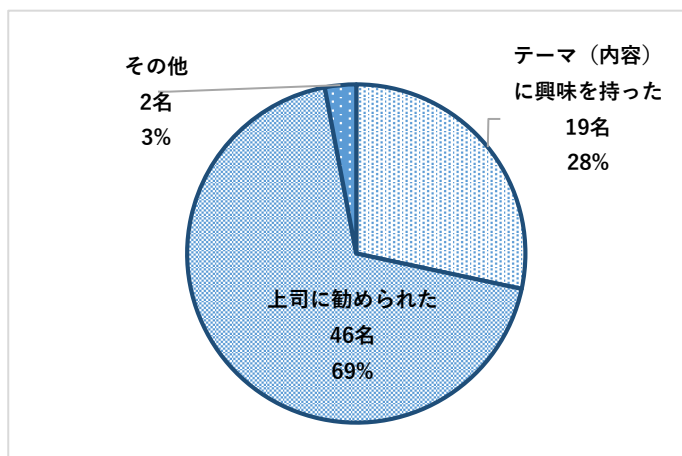
年齢

20代	30代	40代	50代	合計
4	22	32	9	67

施設

200床未満	300床未満	400床未満	400床以上	合計
21	20	7	19	67

2 受講動機



【その他】

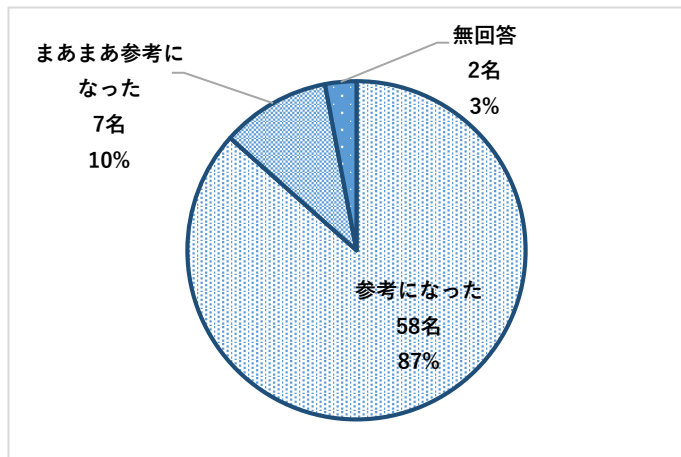
- ・教育委員として学習するため

3 講義（現状分析）について

- ・アウトカムモデルを用いることで現状を整理することができた
- ・振り返るだけでなく、その時期の状況を把握し、それぞれの思いを知り、その思いに沿った対応はどのようなものかを考え、次の機会（教育指導）に活かしていくことの大切さを知れた
- ・振り返るとともに他者の意見を聞くことで考えの幅が広がった
- ・他施設の教育担当者の悩みも共有でき、新人教育において大切なことを認識できた

- ・実際の関わりをプロセスコードにし、グループで深めて話をしたことにより、自分の傾向や指導で大切なポイントに気付くことができた

4 講義（アクションプラン）について



- ・多くの意見を聞ける貴重な時間だった。学びになった (5)
- ・リフレクションが参考になった。自分では気付かなかったことを指摘してもらい、「なるほど!!」と思うことがあった。人に語ることは大事なことだと思った
- ・いろいろな意見交換ができ、共感してもらえることにも心強くなった。相手を認められるように心を広く持ちたいと思った
- ・グループの枠を超え、さらに多くの他者の意見を聞くことができ、考えを豊かにすることができた。とても貴重なことを経験させていただいた

5 今回の研修について

- ・講師の話し方がとても楽しくわかりやすかった。この学びを実践で活かして自分の身につけたい
- ・グループワークでは、他施設の状況や他の人の意見が聞けて考えが広がった
- ・日頃の悩み等たくさん解決できた。次年度の計画にも参考になった
- ・新人のねらいやどうなりたいかを知り、それを実現するために私たちができることチームで考え、今後支援していきたいと思う。今回の研修で自分のねらいを再認識することができた。良い看護体験を新人が出来るよう導き、看護の喜びを感じることが出来るよう関わられたら幸いと思う

IV 実地指導者研修（1・2日目）

開催日 令和元年5月9日（木）、5月10日（金）

参加者 142名（内、非会員9名） 回答 139名

講師 東京医療保健大学 医療保健学部 看護学科 教授 末永 由理

1 参加者の背景

職種

保	助	看	准	合計
1	6	134	1	142

実務経験年数

0~4年	5~9年	10~14年	15~19年	20~24年	25年以上	不明	合計
56	49	15	8	9	0	5	142

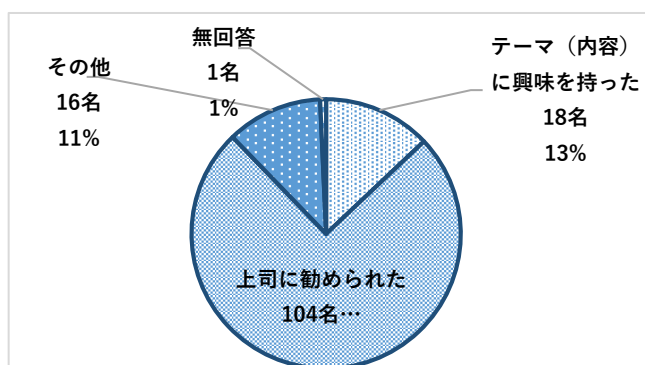
年齢

20代	30代	40代	50代	無回答	合計
78	40	17	1	3	139

施設

200床未満	300床未満	400床未満	400床以上	無回答	合計
50	25	17	41	6	139

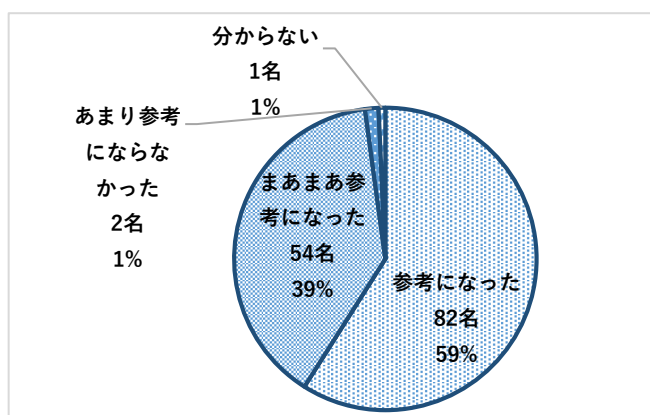
2 受講動機



【その他】

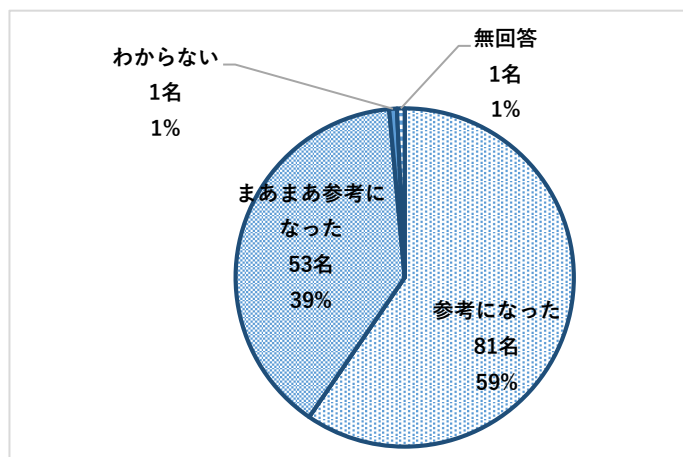
- ・ 必須研修のため（3）
- ・ ラダー取得のため（2）
- ・ 実地指導者を経験したことはあるが、研修を受けたことがなかったから

3 1日目講義「自己の役割を理解する」について



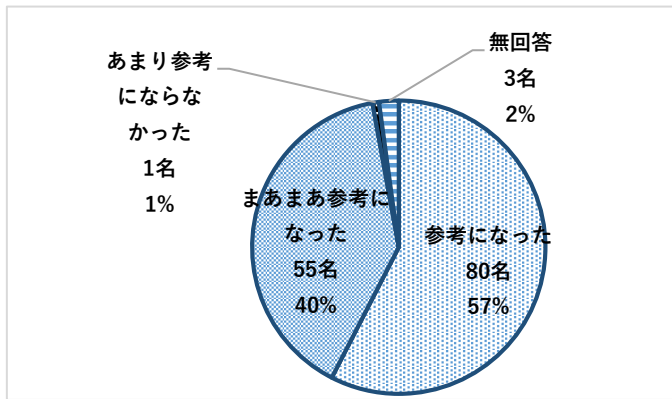
- ・ 実地指導者、先輩看護師として、新人指導への役割が再確認できた (6)
- ・ 新人看護職員研修ガイドラインがあることを初めて知り、内容について概要がわかった
- ・ 新人の個性に合わせて指導内容を考慮したり、一方的に伝えるだけでなく共にどうしたらよいかを考える姿勢が大切だと学んだ
- ・ 病院スタッフみんなで新人教育を行っていくことが大切。その中でも実地指導者がリーダーとなってスタッフと新人をつなぐ役割になると思った
- ・ 自分の能力がどのような段階にあるのか理解することができた。何ができて、できていないのかを明確にすることで、今後の指導に役立つと思った

4 1日目グループワーク「人材育成像を明確にする」について



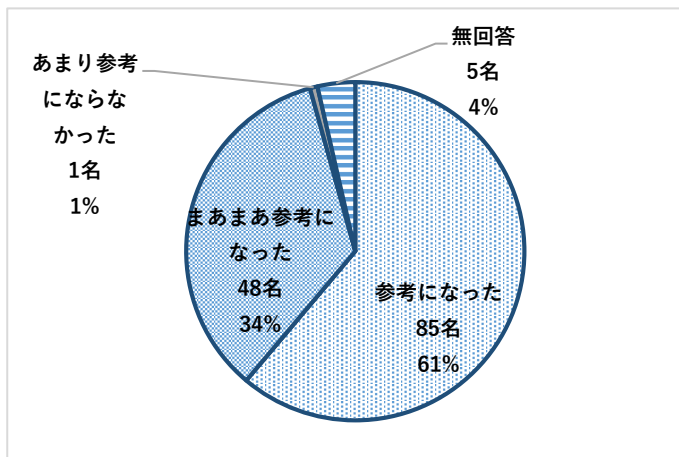
- ・ グループワークで話し合うことで、多様な意見や考えを知ることができた。活かしていきたい (9)
- ・ 目標を達成するために時期に応じた関わりが大切となってくると学ぶことができた (3)
- ・ 新人の年間計画をたてる上で、ガイドラインを参考に、またその対象の個別性を考えて作成することが必要であることを実感した
- ・ どんなふうになってもらいたいのか、モデルをイメージし、そうなれるように関わることを計画的に考えることができた
- ・ ラダーについてこのように詳しく考えることがなかったので、良い機会だった。特にレベルⅠの新人の理解になった

5 2日目講義「対象を理解する」について



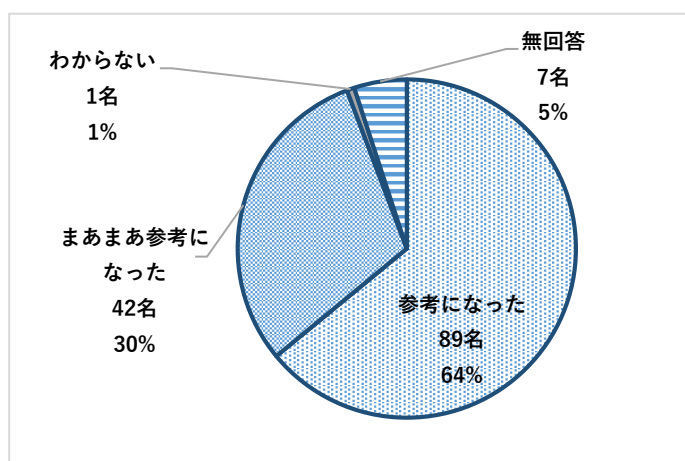
- ・新卒、社会人経験者、社会背景等を踏まえて関わるのが大切だとわかった (4)
- ・カリキュラムの改正などにより、実習時間の短縮や離職率、大卒者の増加など、新人の傾向を知ることができた (3)
- ・新しいカリキュラムに変わっていたことを知らなかったので、今の新人さんがどんな教育を受けてきたのか、新人の一年間の気持ちの変化などよくわかった
- ・データをもとに説明があり説得力があった
- ・実際の仕事の場面でも参考になると思った

6 2日目講義「指導方法・評価方法を学ぶ」について



- ・新人がこれから頑張れるような関わり、ティーチング・コーチングを意識し、一緒に頑張っていくことが大切だと実感した
- ・コーチング、ティーチングについて、新人のスキルに応じて行うことが大切だと思った
- ・その新人の良いところ、強み、個性を見つけ伸ばしていこうと思えた
- ・「強みを表す言葉」の紹介は、今後レポートや新人を評価する際に活用できると思った
- ・リフレクションを通して、自分の看護の振り返りができ、新人を理解するすべ、学習プロセスなどがわかった

7 2日目グループワーク「役割遂行上の課題の検討」について



- ・他病院の対策や現状を知ることができ参考になった (8)
- ・他の病院も問題点や悩みはだいたい同じだとわかり参考になった。頑張ろうと思えた (4)
- ・複数のグループで話し合い意見交換し、さらに他の課題の対策なども学べてためになった (3)
- ・今抱えている問題について解決方法が見いだせた
- ・役割遂行していくためのプロセスがわかった

8 今回の研修について

- ・実地指導者としてどう関わっていけばよいかを学べてよかった (3)
- ・他病院の方とのグループワークで情報交換もでき、同じような悩み（新人指導の現状）も共有できてよかった (3)
- ・新人に対しての関わり方や指導者としての役割が理解できた。理解していることと、実践は異なると思うが留意していきたい。また自身の振り返りをする良い機会にもなり良かった
- ・新人と関わり約1か月。これまでの関わりを振り返ることができた。そして課題や他の人がどのような思いをしているのかわかり、今後に活かしたいと思った

V 実地指導者研修 (3日目)

開催日 令和元年6月17日(月)

参加者 137名(内、非会員9名) 回答130名

講師 金沢医科大学 精神神経科学 講師(臨床心理士)北本 福美

1 参加者の背景

職種

保	助	看	准	合計
1	6	129	1	137

実務経験年数

0~4 年	5~9 年	10~14 年	15~19 年	20~24 年	25 年 以上	不明	合計
55	48	14	7	8	0	5	137

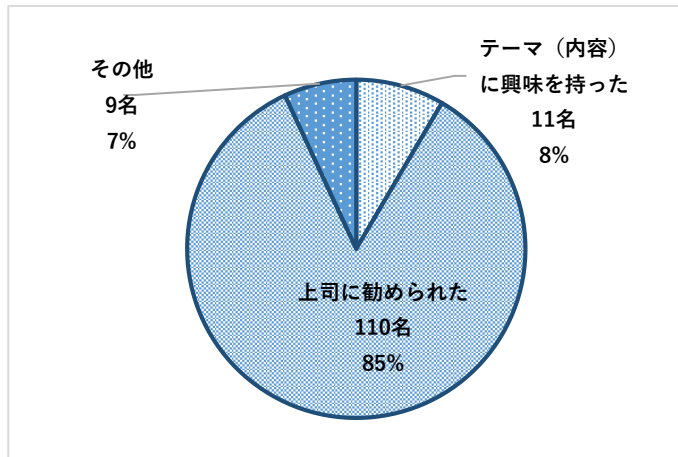
年齢

20 代	30 代	40 代	50 代	無回答	合計
74	37	17	0	2	130

施設

200 床未 満	300 床未 満	400 床未 満	400 床以 上	無回答	合計
48	27	17	37	1	130

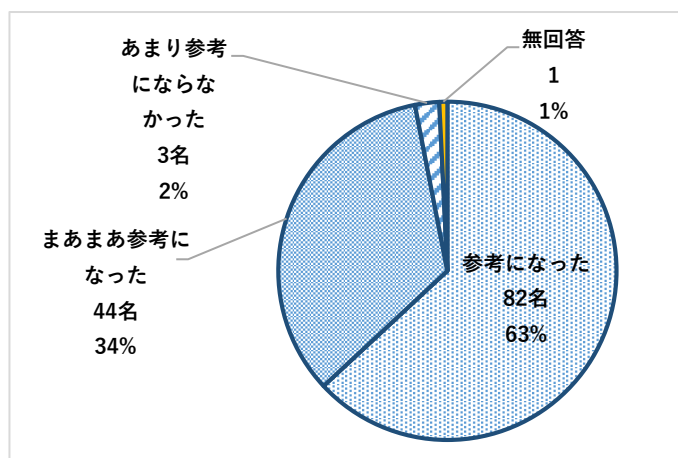
2 受講動機



【その他】

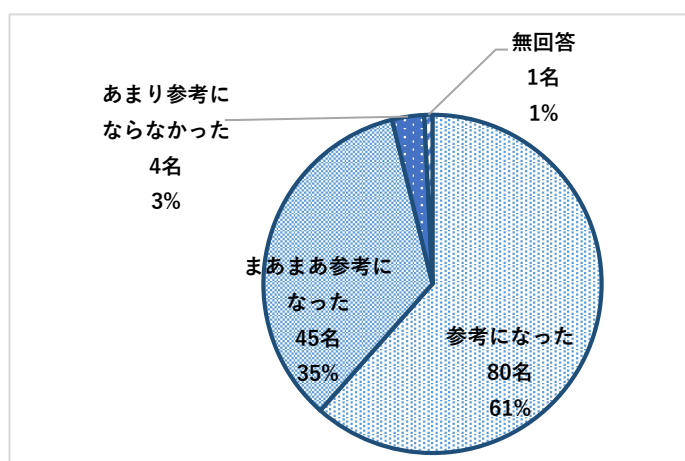
- ・院内研修の一貫
- ・職場での新人教育の指導者のため

3 講義について



- ・気持ちが楽になった。リフレッシュした
- ・怒りの対応プロセスについてよくわかった。自分の特性を知ることができた
- ・新人看護師への指導でいきづまることが多々あり、言い方や言い回し、どのような態度で関わればよいか知ることができた
- ・アンガーマネジメントを新人だけでなく日常でやっていきたいと思った。聞いてよかった
- ・仕事でも家庭でも相手がわかるように伝えることで、自分の怒りやストレスを緩和できることを理解した

4 コミュニケーション・ストレスマネジメントについて



- ・身体がすっきりした。特に目を閉じて想像するのと瞑想はすっきりした
- ・ストレスをためこんだ時の対処法や相手との上手な関わり方を、自分の生活や仕事でも取り込んでいきたい
- ・ストレスとの向き合い方、その特性や分析の必要性を学べた
- ・注意や指摘をするときには、一度肯定してから言おうと思った
- ・ネガティブな表現をしないようにするためには、～な能力があると言い方を変えたらいいという気付きになった

5 今回の研修について

- ・具体例や検査を用いて講義していただきわかりやすかった
- ・話が聞きやすく、どの内容も興味深く聞くことができた。表面的な見方ではなく、捉え方や伝え方、相手からの伝わり方を考えてみたいと思った
- ・自分自身を見つめ直すとともに新人看護師に対し、どのように接していけばよいか考え直すことができた
- ・新人指導だけでなく、患者と接する時、子育てをするときなどのヒントになった

VI 実地指導者研修（4日目）

開催日 令和元年2月14日（金）

参加者 125名（内、非会員8名） 回答 123名

講師 東京医療保健大学 医療保健学部 看護学科 教授 末永 由理

1 参加者の背景

職種

保	助	看	准	合計
1	5	118	1	125

実務経験年数

0~4年	5~9年	10~14年	15~19年	20~24年	25年以上	不明	合計
49	43	14	8	6	0	5	125

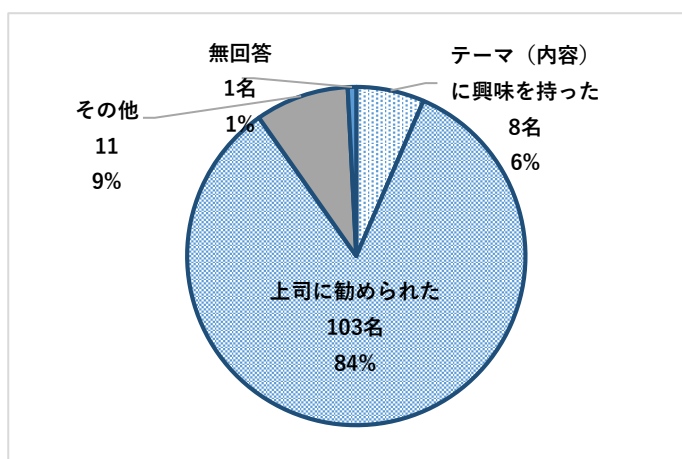
年齢

20代	30代	40代	50代	無回答	合計
65	38	17	0	3	123

施設

200床未満	300床未満	400床未満	400床以上	無回答	合計
43	26	14	37	3	123

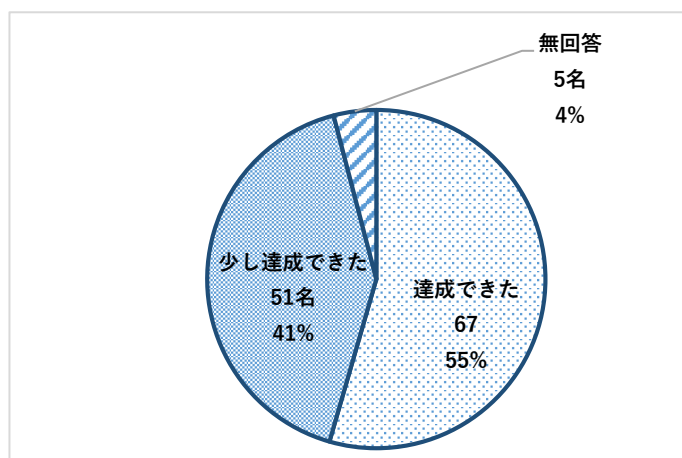
2 受講動機



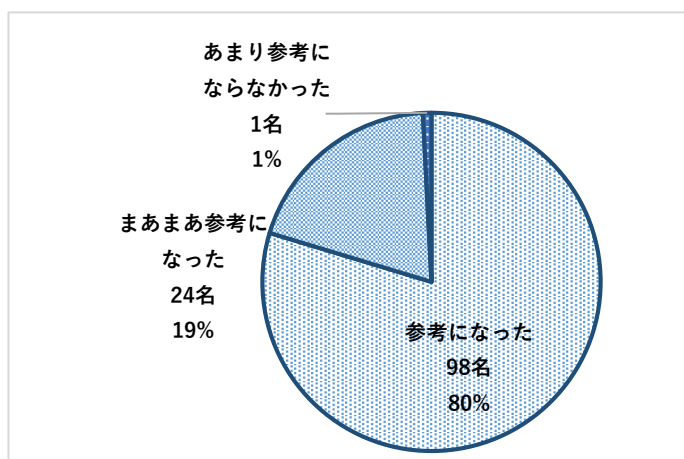
【その他】

- ・カリキュラム (2)
- ・必須研修のため (2)
- ・プリセプターになった

3 課題について

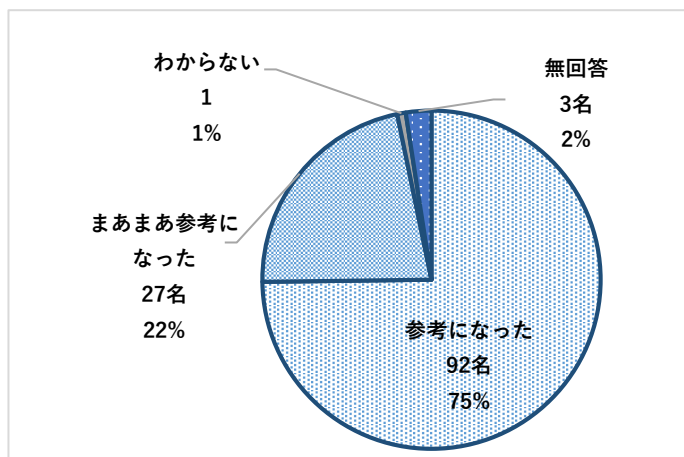


4 午前の講義・グループワークについて



- ・他病院の新人指導方法や教育方法を知ることができた (18)
- ・グループごとに新人教育の目的や方法が異なっており、参考になった
- ・他病院の実地指導者と新人の関わりを知ることができ、当院との違いや参考にできるところを学べた。また、同じような経験をしていることもあり共感できた
- ・新人が働きやすくなるような人間関係を構築できるように働きかける。新人とスタッフの懸け橋となれるようにしたい
- ・どんな看護師になってほしいかが具体的に変わった。また、そのためにどんな関わりが必要なのかイメージがついた

5 午後の講義・グループワークについて



- ・自分の指導者としての関わりを他の人に褒めてもらえ大変うれしかった。来年は実地指導経験者として次の指導者を褒める関わりをしたい
- ・自分1人で振り返るよりもたくさんのアドバイスを共感があり励みになった。また、同じことで悩んでいることがわかり参考になった
- ・様々な新人がいて、その人に合わせた関わり方が必要だと再認識した。多くの人で関わることにより、より成長する機会になると思った
- ・指導者として不足しているところ、関わりが足りなかったところがみえて良かった
- ・発表することで気付けた。新人にどうしてできないの?と思うより、できないことをできるようになるためにどうしたらいいのかを考えることができた

6 今回の研修について

- ・研修に来ると初心に帰ることができ、新人の行動や自分の言動を振り返ることができた
- ・ワークは大変だったけど、ワークを元に具体的に実地指導者として新人と関わることができた
- ・他施設の新人教育を知ることができ、指導者としても学習になり、同じ悩みを共有することで精神的に楽になる
- ・来年度の新人教育に繋げていきたい
- ・グループワークだけでなく心理的なケア方法など学びたかった